

情報をクリップする



発行所 紙製品新聞社 〒542-0061大阪市中央区安堂寺町2-4-14 文健会館3階 TEL06(6765)1881 FAX06(6765)1880 購読料 1年間11,000円(税込) 振替口座 00990-3-16988番 e-mail:clips@ah.wakwak.com

信賴のブランド ショボニカ 学習帳 ショウワノート株式会社

2023年 筆記具類販売額 1612億1800万円



挨拶する西村彦四郎会長



日本筆記具工業会の総会

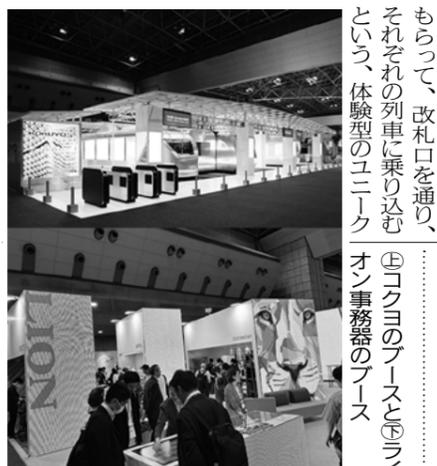
JWIMA 成長性高い海外市場 筆記具は日本が誇る産業

2023年の業界動向は、販売金額は前年比101%の1612億1800万円、コロナ以前の2019年との比較では99.2%に止まった。生産数量においては前年を割っている品目が多い。株高や輸出の円安による収入で2023年



記具産業はまたまた伸びていける」と挨拶。次に、西村会長を議長に議事に入り、上程諸議案を何れも承認可決した。

前年比55%増の 4万631人が来場 第3回オルガテック東京 国内外より163社が出展



ケルンメッセ株式会社、一般社団法人日本オフィス家具協会(中村雅行会長、略称JOIFA)は、5月29〜31日、東京ビッグサイトで、オフィスデザイン専門見本市「第3回オルガテック東京2024」を開催、3日間で前年比55%増の4万631人が来場で賑わった。

を含ま163社のトップブランドが集結。業界からはコクヨ、プラス、ライオン事務器、馬印が出展した。コクヨは、「さあ、つぎの『はたら』へ」をキーワードとし、「理想の『はたら』のあり方を探そう旅」をコンセプトに、欧州のターミナルステーションをイメージしたブースを設営して、3本の列車が並べた。来場者は窓口で切符をもらって、改札口を通り、それぞれの列車に乗り込むという、体験型のユニーク

の業績は増収増益となったとしても、大きな市場変化が筆記具業界に迫っている。数量・金額ともに前年を上回っているのは油性ボールペンとシャープペンシルの2品目。シャープペンシルは金額で前年比15.7%増と、唯一2桁台の伸びを示している。輸出に関しては、金額は完成品その他を合わせた総計で前年比6.6%減となり「70%近くが輸出に頼る筆記具業界において、活路はここしかないのだから、手を変え品を変え挑戦を続けていくしかない。これからの企業努力は海外重視の組織づくりだろう」と海外市場戦略の構築を課題とした。

輸入に関しては、金額は完成品その他を合わせた前年比1.3%増、輸入総額は2019年の230億円のほぼ同額まで回復している。完成品の主要輸入国シニアは中国51%、次いでベトナム14%、ドイツ9%、韓国9%、台湾4%、フランス2%、アメリカ1%。

2024年度事業計画は、筆記具とその関連製品における①生産統計と貿易統計の調査及び研究②内外規格の調査研究③安全及び環境問題に関する調査研究④外国関連団体との交流と情報交換⑤連携折衝と協調、など前年度を踏襲した内容を承認した。

加えて、シャープペンシルのユーザーマニュアル作成を進めている。役員紹介では、新任役員(副会長・和田優氏(べんてる)、理事・西村真由美氏(呉竹)が紹介され、嶋

折れない・割れない・サビない 匠の技 チタン製 ツーウェイ 耳かきブラック 極薄極細仕上げ

ハート株式会社 人から人へ心を伝える ハート紙製品

ライオン事務器は、「実感オフィス(JIKKAN OFFICE)」をテーマに、「カタチ」多彩「安心」「持続性」の4つの視点で提案を行った。企業ロゴをイメージした赤のLED液晶パネルやオフィスデザインのイメージ映像が流れるサインネジを活用したクリエイティブなブースを設営。ブースデザイン・構成には空間デザイナーが参加した。また、最新のオフィス納入事例を、50分の1スケールのジオラマ展示でリアルに再現、注目を集めた。展示商品のうち、家具では集中作業Webミーティングに適したドア付ワーキングブース「Delica Booth(デリカブース)」のコンパクトサイズ、創造性を高める工房のようなワークショップ「アビチャー「LABORE(ラボレ)」、テーブルと一体となっている上部フレームに照明やグリーンをコーディネートできる「カフェ風ハイトール」などを提案した。

田幸久理事の閉会の辞で総会を終了。午後5時40分から別室で懇親会を開催、会員相互の懇親を深めた。なお、恒例の講演会・年末懇親会は12月3日、上野精養軒で開催する。講師には、プロ経営者のハロルド・ジョージ・メイ氏を招く。

自由に いつかは アルバム整理 12月5日は「アルバムの日」 デジタルカメラやスマホで撮りためた思い出の写真をアルバムにしよう!! ALBUM'S DAY

中村会長は「多くの来場者を迎えることができた。経営者も注目する『行きたくなるオフィス』のあり方を提案し続けることで、オフィス家具の発展に尽力していきたい」と述べている。

ライオン事務器は、「実感オフィス(JIKKAN OFFICE)」をテーマに、「カタチ」多彩「安心」「持続性」の4つの視点で提案を行った。企業ロゴをイメージした赤のLED液晶パネルやオフィスデザインのイメージ映像が流れるサインネジを活用したクリエイティブなブースを設営。ブースデザイン・構成には空間デザイナーが参加した。また、最新のオフィス納入事例を、50分の1スケールのジオラマ展示でリアルに再現、注目を集めた。展示商品のうち、家具では集中作業Webミーティングに適したドア付ワーキングブース「Delica Booth(デリカブース)」のコンパクトサイズ、創造性を高める工房のようなワークショップ「アビチャー「LABORE(ラボレ)」、テーブルと一体となっている上部フレームに照明やグリーンをコーディネートできる「カフェ風ハイトール」などを提案した。

HAGURUMA

